



「ウクライナ侵攻抗議」 水戸駅で80人が抗議の声!

～ウクライナ国旗と
ひまわりの花を持って～

ているのか。みんなの力が集まり、声を上げよう。命より大切なものはない」と訴えてくれました。集会後、お話を伺うと「今は弁護士を目指して勉強している。人の役立つことをしたいから。やがて政治の世界にも挑戦してみたい」と言っていました。



3月5日正午、水戸駅南口広場に子どもの手を引いたお父さん、お母さんなど80人が参加し、抗議の声をあげました。ロシア軍の非道な攻撃によって主要都市が攻撃され、民間人の犠牲者も増え、隣国などに避難する女性や子供たちの姿に涙が出ます。チェルノブイリ原発に続いてザポリージャ原発も占拠したというニュースに世界中が驚き、原発が標的になることに震撼しました。県原水協などの代表7団体と3人の方が軍事行動の即時停止、ウクライナからの撤退を訴えました。

前回3日にも飛び入りで発言した水戸市在住のさとこさんは、「プーチン大統領は、人の命を奪うことを何だと思っ

この日は、胸や帽子に小さなウクライナ国旗を付けたり、ひまわりの花（1970年公開されたイタリア映画「ひまわり」のロケ地＝ウクライナ）を手にもったりするなど思いがこもった抗議行動となりました。ウクライナ国旗の青は「空」を、黄色は大地の恵みの「小麦」を象徴するとのこと。この空は、約8,200km離れたウクライナまで続いています。【報告：篠原 睦】



かすみがうら平和の会は 3月6日(日)に!

かすみがうら平和の会は3月6日(日)午後3時20分から4時まで、ショッピングモール



の買い物客でにぎわう交差点で、ロシアのウクライナ侵略に抗議するスタンディングアピールを行いました。

これは、平和の会と9条の会、新日本婦人の会が共同で行い、11名が参加しました。歩道を行くほとんどの人が私たちに会釈をし、中には、「寒いのご苦労様です」と声をかけてくれる方もいました。

前日とは打って変わって、北西の風が吹きつける中での行動でしたが、自前のステッカーや看板を用意して、ウクライナの人々への連帯と野蛮なロシアへの断固たる抗議の意志を示すものとなりました。

これに先立つ3月2日には、かすみがうら平和の会として、ロシア大使館にプーチン大統領宛の抗議文をファクスで送付しました。【県平和委員会事務局次長(かすみがうら平和の会事務局長) 石井 明】

土浦平和の会も 3月5日(土)に!

スタンディングには当日17名が参加し、写真のよ

うにロシアのウクライナ侵略への抗議と東海第2原発再稼働反対の横断幕や手書きのポスターなどを掲げ市民に訴えました。車の中からも多くの人が手を振るなど賛同が寄せられました。19日もスタンディング行動を行います。【県平和委員会代表理事(土浦平和の会) 近藤 輝男】



県南の私立高校1年生の「声」が届きましたのでご紹介します。「ロシアのウクライナ侵攻」について、5つの項目に分けて書いてもらいました。主な意見を拾ってみます。

ロシアのウクライナ侵攻について

高校生の声



1 ロシアによるウクライナへの侵略戦争について、どう思いますか。

- ・せっかく、第1次、第2次世界大戦以降、平和だったのに、また悲劇をくり返すのはよくない。
- ・とてもいやな気持ちです。戦争の影響で多くの人が亡くなり、国境を後にして悲しい気持ちになり、人々がとても苦しんでいます。そんなことはもう見たくありません。
- ・モノクロじゃなくて戦争が見れる時代がくると思わなかった。今すぐ戦争をやめてほしい。

2 ロシア（プーチン大統領）は、なぜウクライナを侵略していると思いますか。

- ・ウクライナがNATOに加盟したらロシアにとって都合が悪いから。
- ・ウクライナをまた自分の国のようしてやりたい。

3 ロシアを止めるために、私たちができることは何でしょう

- ・SNSで声を上げる。
- ・何もできないけど、支援出来ることがあるならしたい。
- ・できることがあるか、わからない。

4 ウクライナの人たちのために、私たちができることは何でしょうか。

- ・できるだけ支援する。募金とかあったらする。

- ・今は何も出来ない。平和を願うしかできない。

5 平和な世界をつくるために、私たちができることは何でしょうか。

- ・差別や偏見をなくす。まずは自分ができることをさがす。
- ・情報が簡単に広められるため、今の状況をたくさん残して、たとえどんな理由があったとしても、戦争をしてはいけないということを伝える。

■アンケートを読み、高校生の「ことば」が多様であることに気づきました。

家族や友人との会話、SNS、テレビニュース、新聞からの情報などに接していることが伝わってきます。何も出来ないかもしれないが、悲惨な戦争を早く終わらせたいと願っていることも・・・戦争は20世紀のものだと思っていましたが、21世紀もたった20年しか経っていないのに「国家間の戦争」を「モノクロじゃなくて」見なければなりません。ロシア軍の即時停戦と撤退を求め、抗議し続けましょう。

■最後にもう一人、取り上げます。

「上に立たせてはいけない人を絶対に上に立たせない。選挙に行く」

「9・30茨城集会・2022年春特別企画」報告

～避難できない原発は運転してはならない～

「JOC臨界事故を忘れない原子力事故をくりかえさせない」集会が、3月6日（日）東海村産業・情報プラザで開催されました。JOC臨界事故（1999年9月30日）によって2名の方が亡くなられ、お二人に黙とうを捧げてから田村武夫実行委員長のあいさつとなりました。「県内44自治体に集会への参加と支持を要請し、34首長からメッセージが寄せられた。プラス3首長からは出席出来ないなど電話連絡を受けた。原子力事故、第2原発再稼働に関心を持っている、ということ。21年3月18日、水戸地裁で再稼働差し止め判決が出された。判決後1周年記念の企画となった」と集会の目的を述べられました。

■記念講演は東海第二原発稼働差止訴訟弁護団 尾池誠司弁護士

記念講演は「2021.3.18水戸地裁判決の意義」と題して、尾池誠司氏（茨城県弁護士会所属 東海第二原発稼働差止訴訟弁護団）がおこなった。パワーポイントを使いながら「水戸地裁判決の下した結論～避難計画作成とこれを実行しうる体制の整備がなされていない場合には差止を認める」「30キロ圏内は実効性ある避難計画ができない地域であると判断した」と説明。水戸地裁は、判決の主な根拠として「これまで、

深層防護（いくつかの防護レベルが独立して有効に機能）は第1の防護レベルから第4のレベルまでとされてきたが、第5の防護レベル（放射性物質が大量に放出された場合）を想定したことが、これまでの裁判とは違った。第5レベルを想定し、「周辺住民の生命・身体が害される具体的危険がある」と再稼働を差止めた。しかし、東京高裁が「第5の防護レベル」を想定するかどうかは分からない。政府は「放射性物質の大量放出は起きない」という考え方がベースになっているからだ。尾池弁護士は、今後も避難計画は出来ないと主張することが大事、住民運動が大切だと締めくくった。

■日本原電が『安全工事を24年9月に延期する』と発表！

田村委員長は、「日本原電は2月28日（月）、『今年12月工事完了予定だったが、24年9月に延期する』と2回目の延期を発表した。廃炉年数は40年でスタートしたが、20年延長が当たり前になっている。再延期したため東海第2原発が再稼働しても稼働期間は短い。20年延長で廃炉ではなく、さらに延長される恐れがある」。東海第2原発の運転停止と廃炉を求めようと訴えました。最後に、集会アピール「避難できない原発は運転してはならない」を採択しました。【県平和委員会 事務局 篠原 睦】

